

## 令和4年度の発掘作業終了

12月20日（火）に上五明条里水田址の令和4年度発掘作業が終了しました。1月からは長野市篠ノ井の埋文センターで出土遺物や写真などの整理作業を行っています。

今年度の調査では、平安時代の集落跡に加え、下層から更に古い時代の水田跡と、古墳時代の土器などがみつけられました。

## 洪水砂層に覆われた水田跡

平安時代後期の集落跡の下層から二時期の水田跡がみつけられました。みつかった水田跡は二時期とも洪水による砂層に覆われていました。

平安後期集落跡の下層 40 cmでみつかった水田跡には、<sup>あぜ</sup>畔と人の足跡が残っていました。しかし畔の残りは悪く、<sup>うね</sup>畑の畝のようなものも検出されたため、水田や畑作など複数回にわたって耕作された跡が重なっていると考えられます。

また、さらにその40 cmほど下層でみつかった水田跡は、畔の残りも良く、水を取り入れるための<sup>みなくち</sup>水口も検出されました。



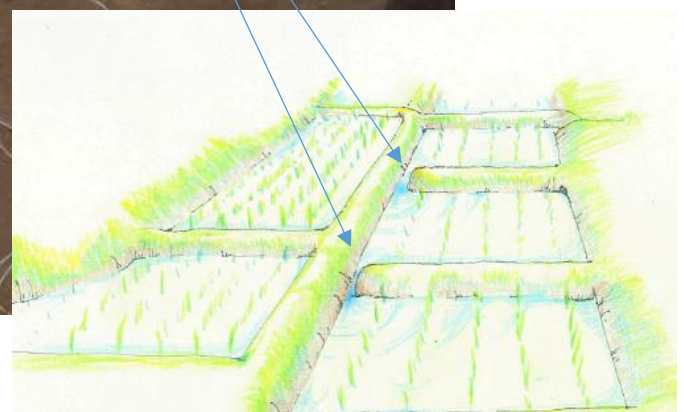
足跡の様子

田面に残された  
足跡を発見！



(左)  
水口の様子

(下) 水田想像図



この二時期の水田跡は、ともに1枚100㎡未満の小区画で、地形による自然勾配を利用していることがわかりました。稲を育てるには、田面に水を均等にいきわたらせる必要がありますが、大きな面積を平らにならすには大変な労力がかかります。そのため傾斜がある土地では、水田を小さく区切ることで、少ない労力で田面を平らにしやすくするという工夫をしていたようです。水田跡からは時代のわかる遺物が出土していないため、はっきりした年代はわかりませんが、土層などから古墳時代～平安時代後期以前の水田跡と考えられます。

どきまいせつうこう

## 古墳時代の土器埋設遺構

はじき すえき

調査区西側の河跡から古墳時代の土師器、須恵器、板状の木材などが多数出土しました。

さらに流路跡の東側から、ほぼ完形の甕がみつかりました。この甕は上部が粘土と石でふさがれており、人為的に埋められたもの（土器埋設遺構）と考えられます。甕の中身は今年度の整理期間中に確認する予定です。



埋められた甕（断面）

どうして埋めてあったのかな？

## 現地説明会

11月3日（木・祝）に現地説明会を行い、52名の方にご来場いただきました。この日は竪穴建物跡や自然流路に加え、古代の製鉄炉を公開しました。製鉄炉の発見は、古代の坂城の人々がどのように鉄を生産していたのかを明らかにする重要なものです。刀匠宮入行平氏の出身地であり、現在も工場が立ち並ぶ「ものづくりの町坂城」の原点となるような発見を公開することができ、また皆様に関心をお寄せいただいて非常に光栄に思います。



製鉄炉の説明を受ける見学者

上田ケーブルビジョンHP・UCVレポートにて現場の動画がご覧いただけます <https://ucv.co.jp/program/report/18243/>

令和4年度発掘作業へのご協力

ありがとうございました！

来年度も継続して調査を行う予定です。

引き続きご協力よろしくお願いたします。

上五明条里水田址 発掘たより 第4号（令和5年1月26日）

長野県埋蔵文化財センター

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4

Tel 026-293-5926 HP <https://naganomaibun.or.jp/>

調査担当：市川隆之・水科汐華・酒井実姫・熊木奈美